

2023 年度 (令和 5 年度) 学校評価自己評価表

校番	福山市立 福山中・高等 学校
最終更新日	2024年(令和6年)3月1日

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 自 校	前年度学校関係者評価の主な内容	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	探究心・創造力・思考力 コミュニケーション力 協働 チャレンジ精神
	<p>○教員、生徒とも、より良い学校づくりに努力されていることが理解できた。○目標と達成に向けた各取組みについてよく理解できた。○保護者との連携を深めていただきたい。○今後引き続き情報発信に努め、より開かれた学校であってほしい。○全体として評価が低いと感じる項目が多い。○コロナが早く治まって積極的な生徒が増えていくことを祈っている。○行事等積極的に地域に情報発信してほしい。</p> <p>教育理念</p> <p>生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会の創造に向けグローバルに活躍する人間を育成する</p> <p>学校教育目標</p> <p>旺盛な探究心、豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒の育成</p>	めざす生徒像	<p>○積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒</p> <p>○多様性を認め合う寛容さをもち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒</p> <p>○心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒</p>

現 状	中学校	高等学校	研究 内容等	テーマ	グローバル社会・地域社会で活躍する意欲と態度をもった生徒をどう育成するか
	<p>(生徒)</p> <p>○「通学マナーを守っている」に対する生徒の肯定的評価は92.2%と高いが、列車内及び登下校でのマナーにおいて地域から苦情が寄せられるという事実もあり、意識のズレがある。</p> <p>○教科指導、特別活動(学活・生徒会活動・学校行事)、進路指導等、学校の取組に対する生徒、保護者の満足度、帰属意識は高い。「福山中で学んで良かった」(生徒)、「福山中へ子どもをかせて良かった」(保護者)に対する肯定的評価はそれぞれ90.0%、92.2%である。</p> <p>○「生徒会活動(委員会含む)に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的評価は62.1%である。また、「友達を大切にしている」に対する生徒の肯定的評価は94.7%である。</p> <p>○「自ら挨拶している」に対する生徒の肯定的評価は82.3%、他者評価の視点から更に高い挨拶が求められる。</p> <p>○長期欠席者は、19人である。</p> <p>(授業)</p> <p>○中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査において、昨年度の結果は国語85%、数学76%いずれも市平均よりも大きく上回る結果となった。また、学力の伸びを把握する調査の結果より、学力を伸ばした生徒の割合は国語2年で54.7%、3年で55.2%、数学2年で53.8%、3年で43.8%であった。現在進めているICTを活用した主体的な学び、探究的な学びを通して、生徒は着実に力をつけてきている。</p> <p>○昨年度実施した学校評価アンケートでは、「主体的な学びをすすめるような授業の研究・工夫をしている」と感じる生徒が90.6%、「総合的な学習に主体的に取り組んでいる」生徒が90.3%といずれも高評価であり、生徒の主体性の高まりが見られる。また、「主体的な学びを取り入れた授業改善を行っている」教員は90.0%であり、教員の意識も高い水準である。</p> <p>○今後も、校内研修の充実を図るとともに、数学、英語での習熟度別のきめ細かな少人数授業、総合的な学習で取り組んでいる探究学習「My探究」、全教科でのICTを活用した多様な学習、課題の提示の仕方や家庭学習を工夫して行う指導、ESDの視点を加味した授業研究に取組み、生徒に「21世紀型スキル&倫理観」を育成する。</p>	<p>(生徒)</p> <p>○「国公立大学合格率が在籍生徒数の50%」に対し42.2%、「難関国公立大学合格者数10名」に対し難関大・医歯薬獣医合計20名の合格。</p> <p>○国公立大学を第1志望とする生徒の割合は入学時は85%である</p> <p>○「モラルを理解している」との回答95.4%、「場面に応じた適切な行動がとれる」との回答95.5%であった。</p> <p>○「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」との回答85.0%、部活動加入率は73.1%であり、「部活動から充実感や達成感を得ている」との回答86.3%であった。</p> <p>(授業)</p> <p>○生徒アンケート「授業を理解している」の肯定的回答は81.2%。教職員アンケート「カリキュラムマップを活用した授業を実践した」の肯定的回答は57.7%。</p> <p>○「資質・能力の向上に努力している」76.2%、ルーブリックの「表」/「課」の伸長率は4年2.1→2.8/2.1→2.7 5年2.4→2.9/2.4→2.9 6年2.9→3.2/2.9→3.2。</p> <p>○新ビジョンに基づく新ルーブリックを策定したの、次年度からは新たな項目での伸長率を見ていく。</p> <p>○継続して、ホールスクールで資質・能力を高める授業の工夫に取り組む。</p>		めざす授業の姿	<p>(1) 「主体的な学び」の過程が実現できている授業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学ぶことに「興味や関心」を持っている。 ② 自己の「キャリア形成の方向性」と関連付けている。 ③ 「見通し」を持って「粘り強く」取り組んでいる。 ④ 自己の学習活動を「振り返って」次に「つなげて」いる。 <p>(2) 「対話的な学び」の過程が実現できている授業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「生徒同士の協働」を通じ、自己の考えを広げ、深めている。 ② 「教職員や地域のひととの対話」を通じ、自己の考えを広げ深めている。 ③ 「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考えを広げ深めている。 <p>(3) 「深い学び」の過程が実現できている授業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 知識を相互に「関連付け」てより深く理解している。 ② 情報を精査して「考えを形成」している。 ③ 問題を見いだして「解決策」を考えている。 ④ 思いや考えを基に「創造」している。

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的・基本的な知識、技能を備えた生徒	・生徒に課題設定をさせたり、自主学習を充実させたりする。	・「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒を90%以上とする。	□指標に係る取組状況	3	2	生徒が自ら課題を設定し、自主的に学習に取り組めるよう、学習方法についての指導を引き続き行う。	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	3	3	3	生徒が自主的に学習に取り組めるよう、生徒のいい学習方法の共有や、面談等を通して、学習方法についての指導を引き続き行う。
				知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・知識、技能を活用して、思考・判断・表現させる内容の授業を行う。	・「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒の割合を85%以上とする。 ・定期考査において活用問題の得点率を60%以上とする。	□指標に係る取組状況	3	2	授業参観weekや校内研修から、互いの良さを学び合う中で、授業改善を図る。 各教科で思考・判断・表現させる場面を設定する。	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	3	3	3	全教科で、授業で思考・判断・表現させる場面を計画的に取り入れ、実施する。
				高い志を持って主体的で、主体的な学習に向かうことができる生徒	・総合的な学習の時間や学活の時間に、自己をみつめ、将来になりたい自分(職業など)を考える時間をとる。	・自分は「進路について考え、目標を見つけようとしている」と答える生徒を85%以上とする。	□指標に係る取組状況	3	3	引き続き総合的な学習の時間や学活の時間を使って将来について考える時間をとりたい。	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	3	3	3	年間を通じて、生き方や進路について考える授業を計画的に実施する。総合的な学習の時間だけでなく各教科の中でもキャリア教育の視点を授業に取り入れ、実施する。
中高の学校生活の中で共に成長する経験を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】			継続	・主体的に挨拶ができる生徒	・生徒会活動を中心に挨拶を活性化する。	・「自らあいさつをしている」と回答する生徒を90%以上とする。	□指標に係る取組状況	3	3	生徒会活動や集会を通して、質にもこだわりながら啓発を行っていく。また、教員によるあいさつ先行も実践し、あいさつの活性化につなげる。	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	3	3	3	継続的な取組となるように、主体的な取組を仕組んでいく。また、肯定的なフィードバックを行う。
				・社会人として必要なマナーを身に付けた生徒	・生徒指導規程を周知し、登下校マナーや学校や社会のルールについての指導を充実させることで生徒の自律意識を高める。	・「登下校のマナーを身につけている」と回答する生徒を80%以上とする。	□指標に係る取組状況	3	4	SHR、学活、集会、通信、生徒会活動などを通して引き続き呼びかける。	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	4	4	引き続き、ルールやマナーについての指導を集会や学活等を通して行うとともに、生徒が「考える」取り組みを設定する。
				・充実した学校生活を送るための自己肯定感の高い生徒	・不登校(長期)生徒数ゼロに向けて取組を充実させる。	・長欠ゼロ実現のための担当者会を週に1度開催し、年間30日以上欠席者数を15人以内とし、新規長期欠席者を0人にする。(昨年度19人)	□指標に係る取組状況	3	3	カウンセラーや関係機関、担当との連携を密に行い、生徒が意欲的に生活ができる取組を担当とともに行う。	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	4	4	生徒が意欲的に生活ができる取組を担当とともに進めていく。必要に応じて、SCや関係機関との連携を行う。

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	福山中	学校
------	-----	----

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							目標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒(教科「道徳」を通じて)	・生徒が自分の問題として「考え、議論する」道徳の授業を行う。教材の工夫等を通して、生徒の興味を引きつける道徳授業の実践を図る。	・「道徳の授業を通して、『よりよく生きること』について考えることができた」と回答する生徒の割合を90%以上とする。	◎目標に係る取組状況 ・9月の生徒アンケートで肯定的に回答した生徒は、85.7%であった。	3	3	引き続き、考え、議論する道徳の授業を行う。生徒の状況や行事に関連付けて教材を決定し、生徒の関心・興味を引きつける授業の実践を図る。	◎目標に係る取組状況 ・生徒アンケートでは肯定的に回答した生徒は94.1%であった。	4	4	4	生徒の実態に合わせた教材を活用し、考え、議論する道徳の授業を行っていく。発問や教材の工夫により、生徒の関心・意欲を引きつける道徳授業の実践を図る。
				主体的な関わり合いを持ちながら共に伸びる生徒	・学級活動、学校行事や生徒会行事を通して人間関係の構築を促す。	・「あなたは友だちを大切にしている」と回答する生徒を100%とする。	・生徒アンケートでは、現時点で肯定的に回答した生徒は、91.8%であった。	4	4	引き続き、学校行事や生徒会行事を通して集団づくりに取り組み、生徒同士のつながりを深めさせる。	◎生徒アンケートでは肯定的評価が96.7%であった。	4	4	4	来年度も行事等を工夫しながら集団づくりに取り組み、生徒同士のつながりを深めさせる。
国際課題、地域課題について探究し、持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】			継続	地域を知り、地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながる取組を行う(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリックの①地域課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは、春の実施では①地域課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.46ポイントだった(昨年度末2.48ポイント)。 ・2学年では、夏休みに職場体験学習を行った。	3	2	引き続き、My探究や各教科等で校外とつながりを持つように取り組む。	◎ルーブリックのレベルが上昇した生徒は20.5%だった。 □My探究での取組 ・ばら講習会など	3	3	3	生徒が「地域の課題解決に参画できた」と実感できる取組を行う
				国際交流や国際課題に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間や教科の授業等で、浦項大東中学校、ダウンラウンズカレッジ等との国際交流を図る(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリック②国際課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは、春の実施では②国際課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.3ポイントだった(昨年度末2.47ポイント) ・全学年で、浦項大東中学校訪問団とフレンドシップフォース訪問団との交流を行った。	3	2	海外の学校との交流をさらに実施し、世界への興味関心を広げさせる。	◎ルーブリックのレベルが上昇した生徒は20.5%だった。 □韓国ホームステイ(浦項大東中学校との交流)	3	3	3	国際交流の経験を、どのように国際課題の解決に反映させることができるか、生徒自らが考える機会を設ける
				自尊心を高め、学びを活かすライフプランを設定し、よりよい在り方生き方考える生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながり自分自身について考える取組を行う(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリックの③在り方生き方探究のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは、春の実施では③在り方生き方探究の平均ポイントは5ポイント中、2.46ポイントだった(昨年度末2.52ポイント) ・My探究で企業とつながって動いているグループがある。	3	2	講師を招聘したり、進路講話を開催したりして、自らの将来に向けたより良い在り方生き方について考えさせる。	◎ルーブリックのレベルが上昇した生徒は28%だった。 □My探究での取組(ベルマーク、地域の情報のパンフレットを公民館に配付など)	3	3	3	自分の経験を、どのように実生活に反映させることができるか、生徒自らが考える機会を設ける

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。 【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校外外に広く発信する広報官としての意識を持つ教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と連携し、オープンスクールや本校の学校行事や教育活動について、小学生の関心意欲を高めるとともに、中学校受検者数の増加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールへの参加者数を750人以上、受検倍率3.2～3.5倍を目指す。 ・学校行事や本校の独自の取り組みをHP等を使い、月5回以上情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの申し込み数は793名、参加者数は736名で、750名を下回ってしまった。 ・事後アンケートの結果は、とても満足74.3%、満足25.7%だった。 	4	3	受検者数を増やすために、使用可能な媒体を積極的に活用して情報発信し、目標達成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・志願者数は403名、受検者数は397名で、受検倍率3.3倍で目標を達成することができた。 	4	4	4	来年度も本校でしか経験や体験できないようなプログラムや国際交流の内容などオープンスクールやHPで発信をしていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月生徒会広報誌を地域に配付することができた。 ・HPのアップ数、4月5回、5月6回、6月5回、7月7回、8月5回、9月7回で、月5回以上情報提供することができた。 							4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会広報誌の発行やHPのアップ数は今後も継続していく。 ・行事ごとにタイムリーな情報をHPにアップし、中学校のPRをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会広報誌を配付できなかった月もあったが、定期的に配付することができた。 ・HPのアップは、10月7回、11月5回、12月5回、1月6回と1年通して、月5回以上アップすることができた。 	4	4	4	各小学校に対して、HPなど可能な方法で積極的な情報発信（学校通信、学校行事、生徒会行事、生徒会新聞、卒業生の声など）を行い、本校への関心を高めていく。	

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価
中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】	継続	基礎的、基本的な知識、技能を備えた生徒	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を意識した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(生徒)で「授業を理解している」を85%以上とする。 	学校評価アンケート(生徒) 79.5%	3	3	各教科は、生徒の実態に応じて観点別学習状況の評価の在り方を検討し、生徒が「分かった」と実感できる授業を行う。	学校評価アンケート(生徒) 78.1%	3	4	4	各教科は、現状を分析し、生徒に付けたい力を明確にする。そのうえで、観点別学習状況の評価を充実させる。
			<ul style="list-style-type: none"> 授業計画表を効果的に活用した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(教員)「授業計画表を活用した授業を実施した」を70%以上とする。 	学校評価アンケート(教員) 88%	4	4	各教科は、引き続き、授業計画表をもとに日々の授業づくりを進めるとともに、適切な評価を実施する。	学校評価アンケート(教員) 94.7%	4	5	5	各教科は、本年度の取組を踏まえ、授業計画表を改善する。生徒が、教科の目標を達成できるよう、計画的に授業を進める。
	継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	<ul style="list-style-type: none"> 「3つの学び」を意識した授業の工夫を行うことにより、生徒の6つの資質・能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「3つの学び」を意識した授業を行い、ルーブリックの資質・能力の内、「創造力」「思考力」「コミュニケーション力」の伸長率を20%以上とする。 	第1回の結果は以下の通り。 4年：創3.0思3.0コ2.0 5年：創2.8思2.7コ3.3 6年：創3.0思3.2コ3.2	3	3	ルーブリックの平均値は第2回との比較を待つ。2学期は修学旅行や探究の時間に発表の機会がありある程度の伸長が期待できる。	4年：創2.9思2.7コ3.3 5年：創3.1思2.9コ3.4 6年：創3.5思3.6コ3.6	4	4	4	昨年の反省を踏まえ、新ルーブリックを作成し取り組めた。左の指標は第2回であり、第3回(2月)は更なる向上が見込まれる。今後も各分掌提案文書に6つの資質・能力を明記し意識化を図る。
	継続	高い志を持って主体的、多面的に学びに向かうことができる生徒	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学受験を前提とした進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査で、国公立大学を第1志望とする生徒の割合を80%以上とする。 	国公立大志望者4年85%、5年84%、6年78%。学校平均81%	4	4	高い進路目標を持ち続けさせるために、学力向上に取り組み、国公立大進学を意識づけるための指導を、面談、集会等を通じて行う。	□様々な機会を通じ国公立大への意識づけを行った。 ◎国公立大志望者4年85%、5年84%、6年出願者69%	4	3	4	生徒への進路面談を重視し、きめ細やかな指導を積み重ねる。地方国公立を含めた幅広い視野をもたせるとともに、生徒の学力向上を図る。
			<ul style="list-style-type: none"> LHRや学年集会等を通して、全員が国公立大学を受験し合格を目指す雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査で、難関国立大学を第1志望とする生徒の割合を10%以上とする。 	7月模試時点で、5年生難関大志望者27名 14%、6年生難関大志望者17名 9%	4	3	各学年、担任で中長期的展望を持った指導を個人を対象にして行うとともに、難関大を意識した指導により教科学力の向上を目指す。	□ISSPや面談を通して難関大志望者の意識づくりと学習指導を行った。 ◎5年生1月記述で難関大志望者S:5名、A:9名、6年生難関大出願者16名	4	3	4	ISSP等で上位校を目指す集団を作る。目標と自分の実力の乖離を早い時期に埋められるように学習指導をする。
			<ul style="list-style-type: none"> 共通テストを受験する6年生の割合を95%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通テストを受験する6年生の割合を95%以上とする。 	6年生共通テスト出願者数184名、97%。	4	5	達成した。	6年生共通テスト出願者数182名、96%。	4	5	5	共通テスト利用の私大を含めて、共通テストの全員受験及び、安易な受験選択に流れない雰囲気を作っていく。
			<ul style="list-style-type: none"> 細やかな教科指導と個人面談を通して、5教科7科目を共通テストまで頑張らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格延べ数を99人以上とする。(過年度生含む) 	6年生国公立大希望者146名、78%	4	3	生徒への細やかな対応を進める。進路読解会議で、推薦入試を含めたと前期入試の受験先の指導を的確に行う。	□国公立大受験に向けての意識づけと指導・面談を実施した。進路診断会議のさらなる質の向上を実現できた。一方で提案とは異なる出願が見受けられた事が課題である。◎6年生国公立大前期出願者130名	5	3	3	今後もミニ読解・読解会議の充実により方向性を定め、こまめな面談によりそれぞれの生徒の学力パターンにあった受験指導をしていく。生徒には自分の力を客観的に判断できるような指導を早い段階から進めていく必要がある。
			<ul style="list-style-type: none"> ISSP、ITKPによる難関大学を目指し切磋琢磨する集団を早期に形成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 難関国立大学合格延べ数を15人以上とする。(過年度生含む) 	6年生7月模試時点での難関大C判定以上 9名、5%	4	3	生徒面談の重視、学年・進路・教科での連携強化、明確な指針を得るためのデータ提供に努める。	□データ分析に基づいた読解会議と丁寧な面談により、質の高い出願指導が行われている。生徒の学力向上が課題である。 ◎6年生医歯薬獣・難関国立大出願者16名	5	3	3	今後もミニ読解や教科担当者との連携で補強するべき科目・分野の的確な指導を行う。入学者層の変化について、分析と改善方法について、校務運営会議で検討する必要がある。

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							目標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	目標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	継続	継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	・生徒の自己分析を促したり、ネットリテラシーを育んだりするような講演会を依頼し、全校生徒に取組を行う。	・自己肯定感や、ネットリテラシーに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合80%以上とする。	ネットリテラシーについては4月に「スマホ携帯の学習会」を中高合同で実施した。年度初めに学年集会やLHRで生徒への注意喚起を行った。アンケートでは「モラルを理解している」の回答が95%であった	4	5	学年集会や、始業式・終業式・行事等でSNSを利用する場面においての指導を引き続き行う。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	4	4	今後も様々な機会を通して、生徒に考えさせるきっかけを作る。
				社会人基礎力(礼儀・マナー、自律)を身に付けた生徒	・前期と後期に分けて生徒指導重点目標を設定し、それぞれにおいて指導項目を重点化することで教職員による組織的な指導を行う。風紀委員会活動で啓発活動を行う。	・礼儀、マナー、挨拶に関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合80%以上とする。	礼儀・マナー・挨拶についての委員会活動では、ポスター作成を行った。職員によるマナー等のビデオを作成し、啓発に努めたことにより、一定の評価を得ることができ、肯定的な回答は93.2%であった。	4	5	後期の重点目標「時間を大切にできる市立生」も同様に委員会活動を通して社会人基礎力を身に付けていく。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	5	5	今後も委員会活動などを通して考えるきっかけをつくる。
	部活動や学校行事、生徒会行事に主体的に取組む生徒	継続	継続	継続	・一樹祭等を通じて生徒の主体的、自治的活動を促進する。	・「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートの結果、肯定的な回答は87.3%であった。	4	5	引き続き、学校行事において生徒が主体となる企画・運営を行う。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	5	5	今年度の活動についての反省をもとに生徒会執行部が主体的に自治的活動を推し進めていく。
					・各部活動が自らの活動を発表したり、学校行事等で活躍できたりする場を設ける。	・部活動加入率を80%以上とする。 ・「部活動から充実感や達成感を得ている」と回答する生徒を部活動加入者の80%以上とする。	・部活動加入率は87.6%であった。 ・部活動についての生徒アンケートの結果、肯定的評価は86.7%であった。	4	4	引き続き、各部活動が自らの活動を発表したり、学校行事等で活躍できたりする場を設ける。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	4	4	学校行事等での発表や生徒一人ひとりが活躍できる場を設ける。
					心身の発達に応じて体育祭、スポーツ大会等を計画的に実施する。	・「あなたは体育祭、スポーツ大会などに積極的に参加している」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートの結果は、85.1%であった。	4	4	執行部、委員会を中心に生徒が主体となる企画・運営を行う。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	4	4	体育祭やスポーツ大会に積極的に参加できるよう、競技の内容等を生徒が主体となって検討していく。
	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	継続	継続	継続	・すべての委員会活動を活性化させ、各種委員会における自主的、自治的活動を推進する。	・「あなたは委員会活動などに積極的に参加している」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートの結果、肯定的な回答は71.3%であった。	3	3	各種委員会を実施し、生徒の自主的・自発的な活動を促していく。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	3	3	3	活動内容について各委員会で振り返りを行い、今後の活動について考えさせていく。
					国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】	継続	継続	地元企業と連携した探究学習を通して、地域を知り、地域課題解決に取り組む意欲と態度を備えた生徒	・グローバル人材育成事業により企業研究を行い、企業に対し提案を含めた高校生がつくる高校生のための企業ガイドブックを作成する。	・「地域の企業や課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して対象の4年生の学校評価アンケートで肯定率を80%以上とする。	「地域企業研究」は、全学年を通して61.6%、企業研究に取り組んでいる4年生で肯定率は57.7%であった。	3	3	生徒が主体的に課題解決に取り組めるよう引き続きコーナーや企業と連携を図る。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況
	ユネスコスクールとして、国際交流や国際課題に挑戦する意欲と態度を備えた生徒	・修学旅行などの海外研修を通して国際課題解決に向けたレポートの作成・発表を行い、「夢プロ」では国際課題に関するプログラムに積極的に参加する。	・「国際課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して5年生を対象として学校評価アンケートで肯定率を60%以上とする。	肯定率は、全学年を通して61.1%であり修学旅行や国際課題に取り組んでいる5年生の肯定率は58.4%となっている。	3			3	修学旅行が国内のため、全体の結果につながりにくい。部活や個々に参加している国際交流を全体に共有できる場を設定する。	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	4	3	3	国際交流が従来に戻り、引き続き多様なプログラムを工夫し生徒の国際感覚を涵養していく。	

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	福山高等	学校
------	------	----

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)						
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策	
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	旺盛な探究心、課題の解決に向け粘り強く挑戦する学びを活かしたライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」で行われる「グローバル人材育成事業」や「夢プロ」,その他の様々な教科から現代社会の課題を学び,その上で自身の在り方や生き方を考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「社会や身の回りの様々な今日的な諸課題に関して以前より興味関心を持つようになった」という項目で学校評価アンケート全学年を対象として肯定率を80%以上とする。 	全学年を通しての肯定率は67.9%であった。各学年別では4年生が67.4%、5年生が65.8%、6年生が70.6%となっている。	3	3	今後の4年生校内発表や課題への取り組み、5年生修学旅行後のプチ探究や夢プロなど発表や体験を通して意欲を引き出す。	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	□中間評価と比較して全体的に課題意識は上昇している。◎興味・関心を持てるようになった割合は、全学年で72.6%であった。学年別では4年生68%、5年生72.5%、6年生78.9%であった。	4	3	3	行事や学習の見通しが安定してきた。今後も、探究活動を「自分ごと」とする本質を軸に指導を継続し、生徒の進路実現につなげていきたい。
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する広報官としての意識を持つ教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校への学校訪問や訪問受入等による連携を積極的に行い、意欲ある本校受検者の定着と増加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールへの参加者200人以上、最終の本校受検倍率1.1倍以上とする。 	オープンスクールの参加は361名と目標値を上回った。昨年度比4.4%増加した。(保護者を含めると540名、116%増加)	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に続き体験授業を実施して参加者の満足度は向上した。対面での実施、保護者の参加も復活でき、創意工夫を凝らした本校の魅力発信に一定の成果があった。本校に対する興味関心を高めるホームページの内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な本校受検倍率は、1.05倍であった。(定員94名、出願99名)、受検(98)名、合格(94)名) 	4	3	3	夏のオープンスクールの参加は361人と昨年度比4.4%増加したが、志願者は昨年度より1名減少した。広島県公立高校入試制度変更2年目で、公立校の志願倍率が依然として低下し、定員割れも多い状況を考えると健闘している。減少した要因を分析し、来年度の取り組みにつなげていきたい。	
					<ul style="list-style-type: none"> ・HPやブログを頻繁に更新し、持続的で魅力ある情報を保護者、地域に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの月別更新回数を8回以上とする。 	4月からHPをリニューアルしている。更新回数は月平均11.3回と目標を上回っている。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続きリアルタイムでの情報提供を積極的に行う。特に本校教育活動の情報と生徒の活躍を内外に配信する。 	月平均HP更新回数は10.8回と目標値を上回っている。HPの完全更新を実現しているが、来年度は更新回数、内容ともさらに充実するよう努める。	4	3	3	更新回数は10.6回と目標値を上回っている。今年度から充実している国際交流や部活動についての情報発信をさらに工夫していく。	

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中・高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	働き方改革に取組み、教職員の健康増進と教育の質の向上を図り、教育公務員としての自覚と使命感を持つ。 【信頼される学校】		継続	教職員の超過勤務時間削減	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の一斉退校日を徹底するとともに、現行の業務内容について点検、見直しを行い、業務改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月の時間外労働80時間を超える職員を減少させ、月45時間以内の人数を増加させる。 	月1回の一斉退校日は意識して実施することができた。昨年の上半期と比べて80時間以上の教職員はあまり変化せず、コロナ緩和の影響もあり、45時間以内の数が減少した。	2	2	働き方改革の目標が、教育の質の向上を図ることになり、1人1人が健康で生き生きとやりがいをもって勤務することへつながるという意識を持ち、学校の課題として委員会等でも協議する。	昨年度と比べて、コロナウイルス感染症の影響が少なくなったこともあり、行事や部活動等に対応して、超過勤務時間の削減はできなかった。	2	2	2	特に主任や担任、部活動顧問に超過勤務が多い現状を考慮、主任は一人で抱え込まず人材育成の観点からも部や学年での業務分担を図っていく必要がある。また、担任や部活動顧問は業務が多い時期を除いた時期にできるだけ休息が取れるよう心がける。
			継続	法令遵守の自覚と使命感を持つ教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき、不祥事防止研修を実施するとともに、当事者意識を高め、不祥事の未然防止に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週初めの職員朝会で不祥事防止に係る研修を実施する。不祥事防止研修は5回/年以上実施する。 	毎週朝の不祥事防止研修を始め定期的に研修を行っている。本校の取組による成果と本校への愛着により、不祥事のない職場環境を維持している。	3	3	不祥事を他人事と捉えずいつでもどこでも起こり得ることや他の事例が本校教育にも影響をおよぼすことを常に自覚し、自分や周りの行動・環境を課題意識を持ちながら把握していく。	毎週不祥事防止に係る研修を職員朝会で実施し意識を高めた。全体研修は4回実施し、不祥事のない職場環境を維持している。しかし、不祥事につながる恐れのある事象もあり、いつでもどこでも起こり得る可能性はある。	4	4	4	不祥事を他人事と捉えず、いつでもどこでも、自分にも本校でも起こり得るものと捉え、当事者意識と危機意識をもつよう充実した研修等を実施し、職員の意識を高める。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。